

開催記録

名 称	第3回介護保険事業計画等策定委員会
開催日時	平成29年11月30日（木） 午後1時30分から午後2時30分まで
開催場所	高田庁舎北庁舎 2階 第6会議室
出席者	委員長：馬場幹雄 委員：佐藤 仁、原 敬義、神村正子、横山隆司、須藤 實、邊見哲朗、根本隆男、阿部明子、栗城加代子 事務局：（健康ほけん課）日吉祥晃課長、介護保険係 国分政和係長、長谷川国子、遠藤絵美、高木克哉、（福祉課）星 寿明課長、高木朋子課長補佐、社会福祉係 鈴木睦子係長 ※欠席者：萱場博子、丹藤正明、薄 謙一、弓田秀樹、三津谷若子
議 題	高齢者福祉計画及び介護保険事業計画素案について
資料の名称	第3回介護保険事業計画等策定委員会
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 協議【議長：馬場委員長】</p> <p>（1） 高齢者福祉計画及び介護保険事業計画素案について 事務局より説明</p> <p>《第1章についての質疑》</p> <p>（委員長）計画で使用されている文言や課題については、総合計画からきているのか。</p> <p>（事務局）第3次総合計画の中の、高齢者福祉施策（高齢者福祉の充実）の中であげられている課題です。</p> <p>（委員長）高齢者福祉・介護保険事業の計画は3ヵ年の計画だが、その中に第3次総合計画の課題が入ってくるということか。</p> <p>（事務局）第3次総合計画は平成28年に策定され、平成37年度までの計画となって</p>	

おり、たとえば、P 3 の計画における 7 つの基本目標は、総合計画において高齢者福祉施策の基本的な課題として掲げているものです。ただし、説明及び取り組みの方向性等文中の内容については、第 3 次総合計画作成時のものではなく、現時点の傾向に併せて作成させていただいています。

《第 2 章についての質疑》

(委員) いつごろに実施されたアンケートなのか。

(事務局) ニーズ調査につきましては、P 6 の調査の概要にもあるとおり、H29. 1. 30～2. 20 までが調査期間になります。

また、在宅介護実態調査につきましては、H29. 1. 10～3. 24 までが調査期間となります。

(委員) アンケートについては、現在介護が必要でない方にも実施しているが、それを活用して、これから介護が必要となる人を訪問してはどうか。そうすることで、重度化の防止につながるのではないか。

また、実際に介護サービスを利用してみると、家族は非常に助かる。ただ個人的には、介護サービスについてわからない部分も多いのではないかと感じている。そういった意味でも、早く、要介護者に関われないのかと思う。早く対処していただくことで、住民の安心にもつながる。

(事務局) アンケートを活用しての訪問という部分については、対象者を無作為に抽出しているため、なかなか難しい。

また、早めの対応という部分については、もちろん常に早めの対応ができるように努めている。現在包括支援センターにおいても、訪問等を行っている。他にも、要介護状態にならないために、介護予防についても力を入れている。

《第 3 章についての質疑》

(委員長) 各事業に課題が挙がっているが、課題をどうすれば解決できるかまで考えているのか。

(事務局) 課題については、利用者のニーズに合わせたものに事業内容を精査・統一し、その後、それぞれの課題について対処していきたいと考えている。

《第 4 章についての質疑》

(委員長) P 33 のロコモティブシンドロームとは。

(事務局) 間接の痛みや筋力の低下により、歩く力などが衰えた状態を指します。

他にも、専門用語等のわかりにくい用語があるので、適宜注釈をいれるようにします。

(委員長) 認知症に関連して、最近の高齢者の交通手段の問題について、特に免許証を返納した場合に、非常に交通が不便になってしまう。そのあたりの認識としてはどのように考えているのか。

(事務局) まず、免許の返納に関しては所管課がくらし安心課であり、現在の取組みとしましては、返納した年のみ町内デマンド交通の利用券をお渡ししております。町内デマンドについても、所管課であるまちづくり政策課でも話しは出てきておりますし、今回のニーズ調査においてもそういった意見がでてきます。他自治体の取組みとして、ボランティアによる協力を行っているところもありますが、事故が起こった場合の責任問題等様々な制約・課題がある。交通の課題に関しては、全体の交通体系に関しては所管課であるまちづくり政策課に検討を続けていただき、介護の分野において救える部分は救っていかねばならないと考えている。交通の問題に関しては、課題として認識し、今後も検討を続けていく必要があると考えている。

(委員長) 家族介護に対するケアについては、非常に難しい課題であると考えてるが、そのあたりの認識は。

(事務局) 現在、町で実施している家族介護リフレッシュ事業がございまして、今後も利用者の増加に向け、イベント等にて積極的に周知を行っており、徐々に問い合わせの件数も増えてきているところです。今後も、利用者の増加に向け、継続して周知活動を行っていきたいと考えております。

また、認知症につきましても、今年度より認知症カフェを行っており、認知症の家族の方の情報交換・リフレッシュの場として利用してもらえるように取り組んでいるところです。

《第5章についての質疑》

(委員) サービス見込み額についてだが、グループホームと小規模多機能型居宅介護について、H32の見込み額については、たとえば整備する場所などの具体的な計画があるのか。

(事務局) 具体的な計画ということではなく、現在認知症の方が増えているといった傾向から必要になるであろうということで推計値としてあげている。実際に、どこの場所にといった具体的な計画はない。

実際にやるとなれば、公募をして選定をし、整備をしたいと考えております。

(2) その他

- ・次回の委員会開催予定 2月上旬
- ・パブリックコメント実施 12月下旬

4 閉会

以上